



活動報告

2024



 蘭台エコアップ・プロジェクト

ごあいさつ

私たちの活動にご協力・ご支援をいただき、ありがとうございます。

2024 年度は、団体として活動を開始して 7 年目です。毎回参加してくれるコアメンバーは活動に慣れてきて、気になっていたけど今まで取り組めていなかったことに、「やってみよう！」とチャレンジする余裕が出てきました。

今年は、天王ダムビオトープの対岸にある広場の草刈りと同時に、竹に覆われてしまったツバキの救出をし、冬にはツバキの花がきれいに咲いてくれました。また、これまでは自然が元々好きな親子を対象とした生きもの観察会を開催してきましたが、自然に興味が少ない人にこそ、天王ダムビオトープで遊び、自然の楽しさを知ってもらいたいという思いから、「水てっぽうあそび」という夏休みイベントを開催しました。イベント当日に初めて出会った子供たちもお互いすぐに仲良くなり、天王ダムビオトープの小川の水を使って、水てっぽうを撃ち合ったり、水風船を投げ合ったり、魚をみつけて魚とりが始まったりと思う存分に遊びました。嬉しいことに「こんなに楽しい場所を知れてよかった」、「魚がたくさんいたから次は魚とりに来る」、「今まで入ってはいけない場所だと思っていた」など、参加者からは主催者が狙ったとおりの反応が返ってきました。

狙いどおりという点では、昨年度の生きもの観察会に参加してくれた子供が、モクズガニの脱皮殻を発見したことで、海で生まれて川で育つ生態を持つモクズガニが、天王ダム上流に生息している可能性が示唆されていました。今年は生体を捕獲するため、天王ダムにスルメを付けた網を投げ入れたところ、狙い通りに生きたモクズガニを捕獲することができました。次年度はモクズガニがどのようなルートでやって来ているのか調査したいと考えています。

また、昨年度間伐した材が天王ダムビオトープに置いてあり、タマムシやカミキリムシの幼虫のゆりかごになっている可能性が考えられていました。今年度、県の支援を受けて薪割り器(本体を地面に置いて、セットした薪をハンマーで叩く手動式)を新調し、間伐材(朽ち木)を割って調査したところ、狙いどおりタマムシの幼虫を発見することができました。

天王ダムビオトープでは、6月の夜にはゲンジボタルが飛び交い、7～8月の日中にはタマムシが飛び交うという、身近ではなくなってしまった生きものを、手に取って観察できる、ビオトープという名にふさわしい場に育ってきています。毎年継続しているカエルの産卵場のためのプールづくりも成果を上げています。希少なニホンアカガエルが3月に産卵にやって来て、その後、オタマジャクシからカエルに成長していく過程を観察することができます。

これまでの活動を通して、メンバー(子供も大人も)が成長していると同時に、ビオトープとしての機能も向上してきています。今後も活動を継続していきたいと思いますので、引き続き応援よろしくをお願いします。

鈴蘭台エコアップ・プロジェクト

会長 日野 淳郎

公式サイト:<https://kobe-shizen.net/>
連絡先メール:dam-bio@kobe-shizen.net



メール



Facebook



Instagram

活動目的

天王ダムビオトープは鈴蘭台地区では貴重な、車で来て安全※に水遊びができる場所です。地域の子供たちが気持ちよく安全に自然観察や川遊びができ、大人も散歩やピクニック等に利用できる場所として維持することで、地域の環境意識の向上、生態系の保全、地域の人々の交流促進を図るとともに、ダムの治水機能・水辺の事故防止の啓発を目的としています。

※天王ダムビオトープは河川及びダム湖内にあるため、雨天時や増水時は絶対に近づいてはいけません。また、晴天時であっても水辺は一步間違えると取り返しのつかない事故につながるため、注意が必要です。

2024年度の主な成果

- 夏休みに「いきものしらべ(生物観察会)」と「水てっぽうあそび」を開催しました。広報やシャワールームの使用など、天王ダムスポーツガーデンにも協力してもらいました。良好な関係を築いており、相乗効果を期待しています。
- 六甲山系に自生する樹種 16 種類が植栽されている里山ゾーンでは、木が順調に生長し林らしくなってきました。
- オニグルミの実が約 10 個落ちているのを確認しました。ネズミやリスが採餌にやってくるかもしれません。
- センサーカメラで、イノシシ、タヌキ、キツネを確認しました。
- 新たにモクスガニの生息と、タマムシの幼虫(成虫は既出)を発見しました。

会員

2月現在の会員数は15名で、昨年度から変動がありません。しかし、年2回程度手伝いに来てくれた準会員(次年度入会見込み)が2名います。

活動の記録

実施日	実施内容					参加人数※3	
	ふれあい※1			アドプト※2			
	水質調査	生物調査	イベント	美化	草刈り		
4月6日		○		○	○	オタマジャクシの観察	5人
5月4日				○	○	カエルの観察	5人
6月1日	○			○	○	水質調査	9人
7月6日				○	○	草刈り	9人
7月27日		○	○	○		「いきものしらべ」開催	22人
8月4日				○	○	草刈り、美化	7人
8月12日			○	○		「水てっぽうあそび」開催	20人
9月7日				○	○	草刈り、美化	7人
10月5日		○		○	○	結実調査、モクスガニ調査	7人
11月16日				○	○	草刈り、美化	6人
12月7日	○	○		○		植栽木モニタリング	8人
1月11日				○		パーゴラ周辺の土取り	11人
2月1日		○		○		カエルの産卵場づくり 朽ち木内生物の調査	5人
3月1日				○	○	草刈り、美化	8人
延べ14日	2	5		14	9		129人

※1 ふれあい…「神戸県民センター河川ふれあい活動事業」の支援を受けて実施した活動

※2 アドプト…「神戸県民センター河川ひょうごアドプト」の支援を受けて実施した活動

※3 参加人数には会員以外の体験入会者やイベント参加者、単発で手伝いに来てくれた人の数を含む。

その他の活動

- 神戸市北区新年のつどいに参加 (1/28)

新年のつどいに会長が参加し、神戸市関係者や親和女子大学、神戸電鉄、他団体等と情報交換を行いました。また、市・県議員と名刺交換をするなど、新たな人のつながりをつくることができました。親和女子大学は地域貢献・地域連携に力を入れられており、今後、Win-Winの活動展開を協議していきます。

- KOBE 川の音ベースでの活動

KOBE 川の音ベース(北区山田町)で、「里山の学校」というイベントが10月から毎月開催されており、講師として会長が参加しています。

天王谷川の水質調査

天王谷川の水質をモニタリングするため、毎年6月と12月に、COD、pH、電気伝導度、水温、気温を計測しています。

pHとECは例年のレンジ内の変動ですが、8月のCODが高い値(汚れている)になりました。注意深く観察していきたいと思います。

また、昨年度から12月のEC(電気伝導度)の値が高くなっています。生活排水の混入等が考えられます。

実施日	参加人数
6月1日	9人
12月7日	8人

調査地点は天王ダムビオトープ親水設備

成果・課題など

- 2019年度から夏と冬の年2回の調査を継続しています。pHとEC(電気伝導度)は例年のレンジ内の変動ですが、8月のCODが高い値(値が高いほど汚れている)になりました。注意深く観察していきたいと思います。
- 昨年度は12月のEC(電気伝導度)の値が高く、今年度はやや下がりましたが、平均値より高い値でした。生活排水等が混入し、流量が少ない冬期に、水質に顕著な影響が出ている可能性が考えられます。
- 調査に子供が参加しました。水質の保全や科学に興味を持つきっかけになることが期待されます。

今年度成果の活用

- 8月のCODの値が例年より高かったが、これが一過性の現象なのか、新たな水質汚染が発生しているのか、注意深く観察していきたいと思います。

次年度の予定

- 水質測定結果の蓄積に意義があるため、今後も活動を継続します。

表 水質調査結果(過年度結果含む)

年月日	時刻	天候	気温 (度)	水温 (度)	COD	pH	EC ($\mu\text{S}/\text{cm}$)
2019/6/1	13:40	晴れ		23.0	7		
2019/12/7	16:00	くもり	5.5	7.5	5	7.3	62
2020/6/6	12:00	くもり	26.0	22.5	6	8.1	116
2021/6/5	15:00	晴れ	23.5	19.0	5	8.0	107
2021/12/4	10:30	晴れ	8.0	8.0	2	7.2	154
2023/6/4	10:30	晴れ	22.0	22.5	6	8.4	85
2023/12/3	10:15	晴れ	6.5	6.5	7	6.9	124
2023/8/5	14:00	晴れ	35.0	32.3	7	9.1	277
2023/12/2	10:30	晴れ	8.0	6.0	6	6.7	315
2024/6/1	13:00	晴れ	23.5	21.5	13	6.9	144
2024/12/7	12:30	晴れ	9.5	9.0	7	7.0	276
平均値			夏 26.0 冬 7.5	夏 23.5 冬 7.4	6.6	7.5	166

EC（電気伝導率）：物質中の電気の流れやすさを表す値。溶液中に含まれるイオンの量に比例して値が大きくなる。不純物を多く含む水は値が大きくなるため、水質の指標に用いられる。



pH、EC測定結果 [撮影：2024/6/1]



パックテスト結果 [撮影：2024/6/1]



pH、EC測定結果 [撮影：2024/12/2]



パックテスト結果 [撮影：2024/12/2]



【購入品】水質センサー用電池

今年度は、イベントと兼ねた河川の水生生物調査を7月、里山ゾーンに植栽された樹木モニタリングを12月に実施しました。

また、昨年度の取り組みで創出したカエル産卵場で生まれたオタマジャクシとカエルの観察を4・5月、モクズガニ調査を10月、朽ち木内昆虫調査を2月に実施しました。

11～3月までセンサーカメラを用いた哺乳類調査も実施しました。
 いろいろな新たな生物の存在を確認できました。

内容	場所	実施日	参加人数
カエル観察	河川	4月6日	5人
		5月4日	5人
水生生物調査	河川	7月27日	22人
モクズガニ調査	ダム湖	10月5日	7人
樹木モニタリング	里山ゾーン	12月7日	8人
朽ち木内昆虫調査	里山ゾーン	2月1日	5人
センサーカメラ調査	里山ゾーン	12月～3月	—
		延べ6日	延べ52人

成果・課題など

(川)

- 昨年度、モクズガニの脱皮殻が確認されていましたが、今年度はダム湖でモクズガニの生体を捕獲しました。天王ダム堰堤を越えて遡上してきたとは考えにくいので、布引→再度公園→洞川を経て天王ダムにやってきたと推測されます。
- 昨年度創出したカエルの産卵場でニホンアカガエルが産卵し、オタマジャクシが生まれました。また、5月には尻尾が少し残ったとても小さなカエルが、上陸する瞬間に出会うことができました。
- 川辺に植栽されたマコモが増殖し、小魚の隠れ場所になっています。河川生態系の本来の姿が再現されてきています。

(里山ゾーン)

- 7月の日中には、たくさんのタマムシが植栽されたエノキの周囲を飛翔していました。
- 昨年度間伐し放置していた朽ち木を割ってみたところ、中からタマムシの幼虫が出てきました。ビオトープ内でタマムシの繁殖が行われていることを確認できました。
- 里山ゾーンに設置したセンサーカメラに、イノシシ、タヌキ、キツネが写りました。
- 樹木が順調に成長していることが確認できました。
- オニグルミが昨年度よりも多く結実し、12月に約10個の実が落ちているのを確認しました。ネズミやリスの餌場になることが期待できます。
- 剪定枝や落ち葉を貯めるバイオネストを作成し、出水による流出を防止するため、なるべく高い位置に間伐材や選定枝を保管していましたが、何者かに破壊されました。低い位置から破壊されていたためイノシシの仕業と考えられます。

今年度成果の活用

- 毎年水生動物調査をすることで、新たな種の確認や、個体数に年変動があることが分かってきました。自然環境は長い目で見なければ本質を見極めることが困難です。科学に貢献できるように今後も調査を継続します。
- 植物が育ってきたことで、ビオトープでみられる生物にも変化があると予測されます。今後はビオトープを利用する昆虫類、鳥類、哺乳類にも注目していきます。

次年度の予定

- モクズガニの遡上ルートの調査を検討しています。六甲山地は勾配の大きい山で、市街地が迫っていることから多くの砂防ダム等が設置されており、生物の移動を妨げる原因になっていますが、人間の常識を超えて、モクズガニは海から六甲山登山をして海に帰るといふ長旅をしている可能性があります。
- 水生生物調査、樹木モニタリング、センサーカメラ調査を継続します。



モクズガニ [撮影：2024/10/5]



ニホンアカガエルの幼生 [撮影：2024/4/6]



ニホンアカガエルの幼生 [撮影：2024/5/4]



ニホンアカガエルの幼体 [撮影：2024/7/6]



オニグルミ [撮影：2024/7/6]



タマムシの幼虫 [撮影：2025/2/1]



薪割り器を使った朽ち木割り
[撮影：2025/2/1]



いきものしらべ [撮影：2024/7/27]



樹木モニタリング [撮影：2024/12/7]



センサーカメラ設置 [撮影：2024/12/7]



キツネ [撮影：2024/12/12]



タムキ [撮影：2024/12/27]



イノシシ [撮影：2024/12/27]



イノシシに破壊されたバイオネスト
[撮影：2024/11/16]



【購入品】ノギス用電池



【購入品】薪割り器



【購入品】センサーカメラ



【購入品】ウォータータンク



ヤマザクラ [撮影：2024/4/6]



ヤマザクラ [撮影：2024/6/1]



オオミズアオ [撮影：2024/5/4]



クロアゲハ [撮影：2024/5/4]



オニグルミ [撮影：2024/5/4]



オニグルミ [撮影：2024/5/4]



ヤマボウシ [撮影：2024/6/1]



ヘラノキ [撮影：2024/7/6]



ハラビロカマキリ [撮影：2024/9/7]



クビキリギス [撮影：2025/3/1]

里山ゾーンの植栽木モニタリング結果

1. 調査方法

里山ゾーンにおける植栽植物の調査を12月7日に実施しました。測定項目は生育本数、樹高、胸高直径(約1.3mの高さの幹回り)としました。

2. 調査結果

調査の結果、順調に生育していることが分かりました。

平均樹高は487cm(昨年度:438cm)で、最大樹高はアベマキの946cmでした。植栽当初は樹高が40~60cm程度で、草より小さな木が多くありましたが、林らしい外観になってきました。なお、生育箇所数と生育本数は、昨年度に間伐をしたため数が少なくなっています。

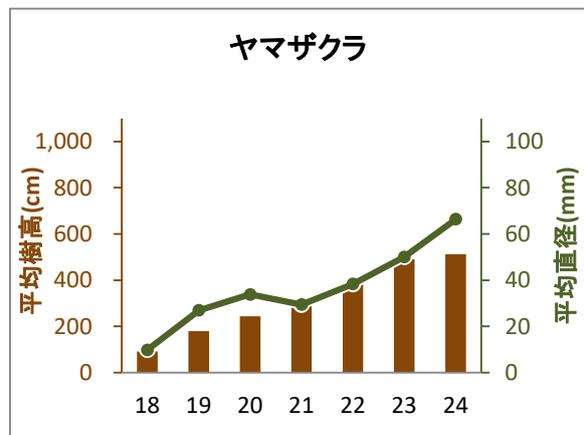
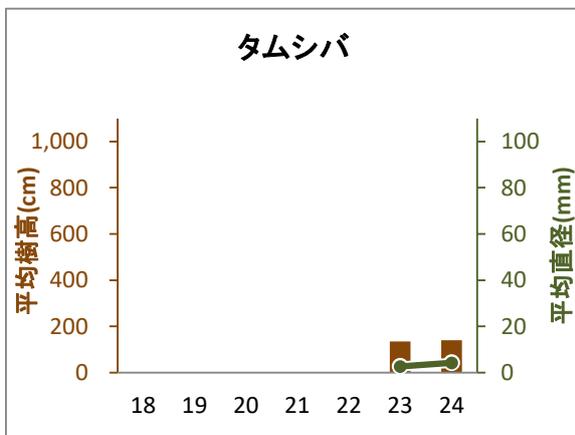
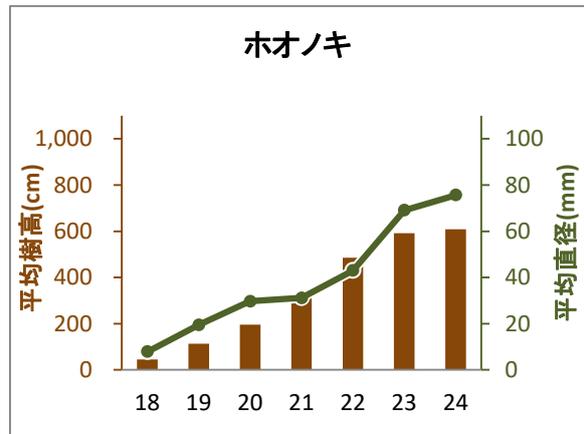
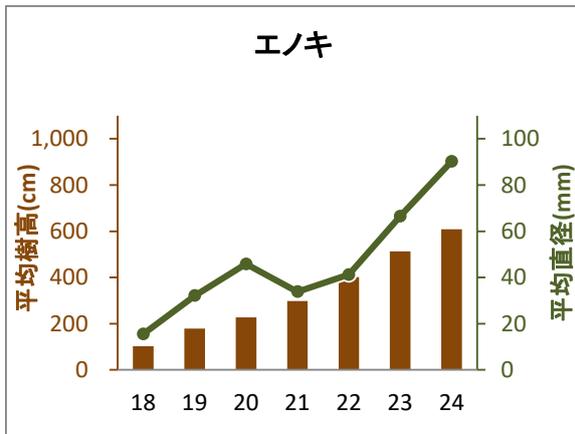
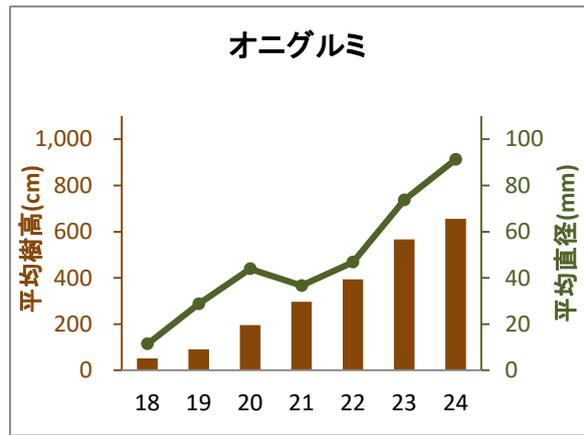
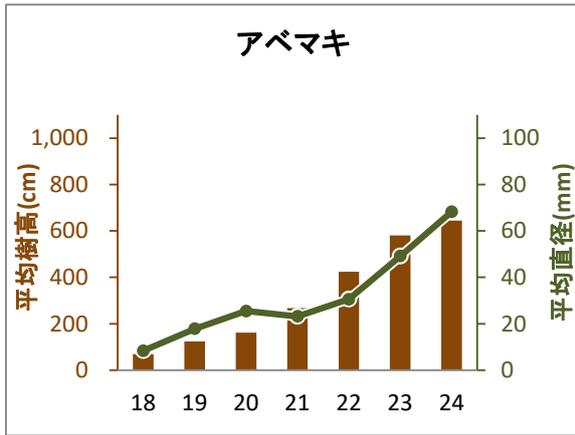
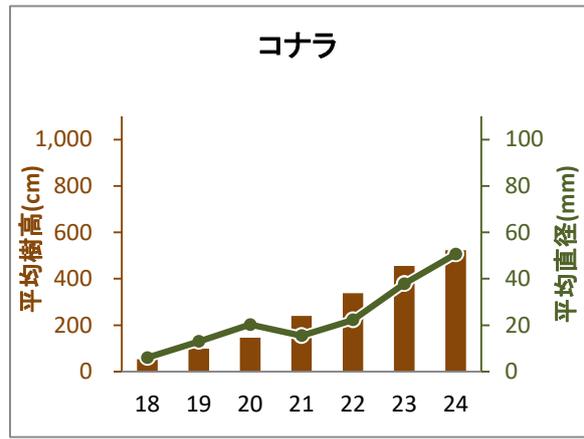
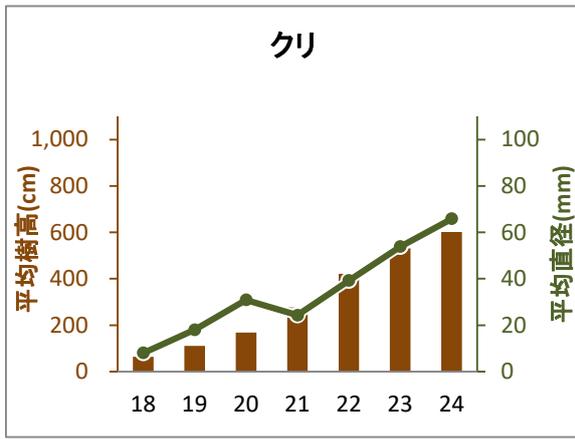
ヤマザクラの果実(サクランボ)の結実や、オニグルミの実が昨年よりもたくさん実るなど、樹木の生長が感じられます。

一方で、ウラジロノキ、エゴノキ、マルバアオダモは成長がやや悪く、マルバアオダモについては、幹の先端が枯れて折れたことで、樹高がマイナスになっていました。猛暑の影響も少なからずあると考えられます。

表 里山ゾーンの植物モニタリング調査結果概要

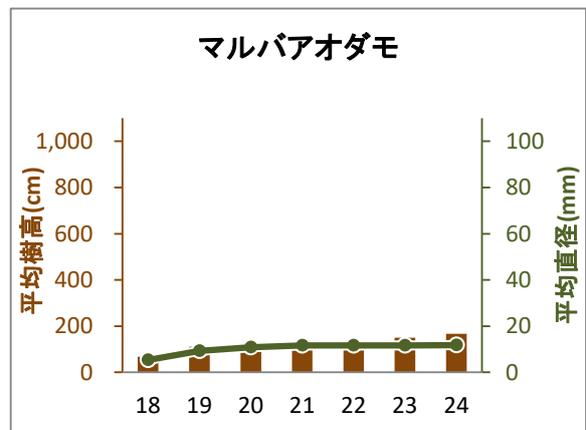
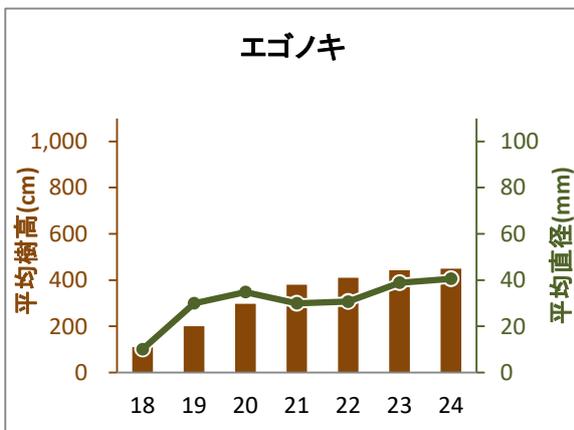
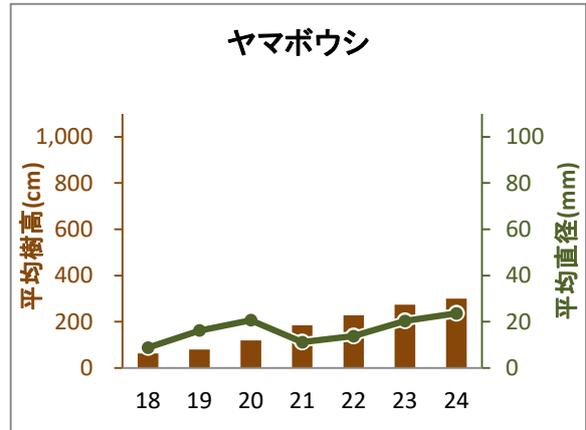
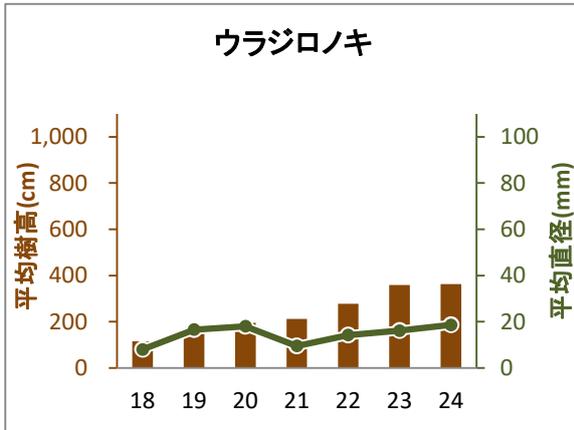
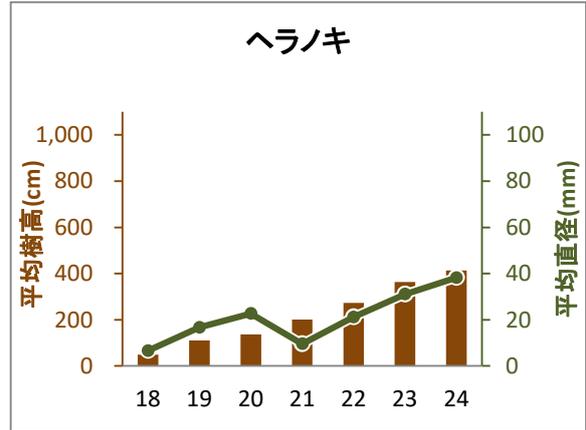
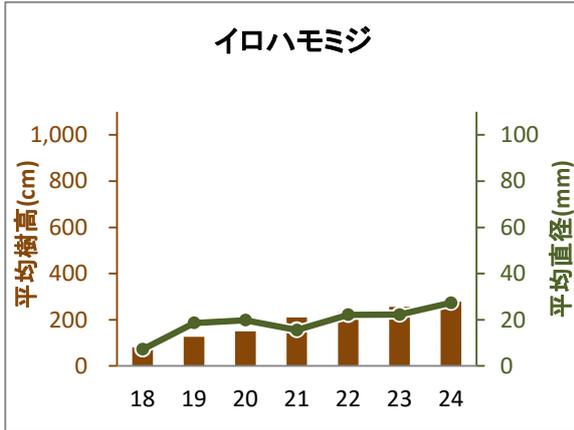
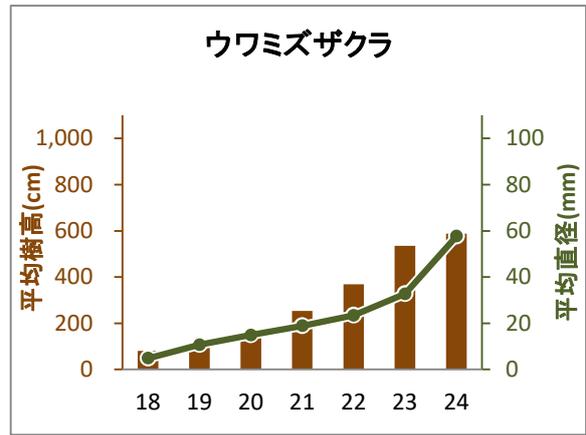
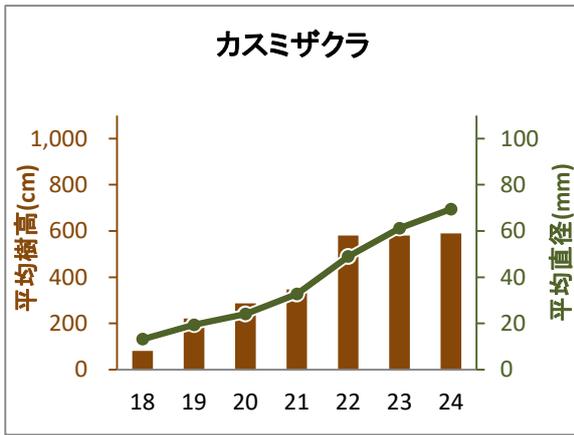
調査時期	生育箇所数	生育本数	生育種数
2017年2月14日 (植栽時)	203箇所	554本	16種
2018年10月24日	179箇所	428本	15種
2019年12月7日	178箇所	405本	15種
2020年12月6日	182箇所*	398本	15種
2021年12月4日 20日	180箇所	393本	15種
2022年12月3日	178箇所	386本	15種
2023年12月2日	182箇所	390本	16種
2024年1月6日			
2024年12月7日	145箇所	297本	16種

*タムシバの捕植により生育箇所数、生育本数、生育種数が増加した。



※2020年以前は地際の直径、2021年から胸高直径を使用している。

図 樹種別の平均樹高と平均直径の推移 (1)



※2020年以前は地際の直径、2021年から胸高直径を使用している。

図 樹種別の平均樹高と平均直径の推移 (2)

カエルの産卵場づくり

これまで天王ダムビオトープではニホンアカガエル、ニホンヒキガエルの生息が確認されています。しかし、これらのカエルの産卵に適した水たまりがないことから、2021年度から河原に産卵用の水たまりをつくる活動を実施しており、2021年度からニホンアカガエルが産卵し、オタマジャクシの生長を観察できる場として、遊びに来た親子に人気のスポットになっています。

実施日	参加人数
2月1日	5人

成果・課題など

- 昨年度につくった産卵場にはニホンアカガエルが産卵し、6月には小さなカエルが上陸して山を目指してピョコピョコと跳ねて行くシーンに出会うことができました。
- 2月28日時点では、まだ産卵を確認できていません。今年度は冬季の降水が非常に少ないため、早春季に産卵するカエルやサンショウウオの繁殖が他の場所でも遅れています。

今年度成果の活用

- 近年、アライグマが両生類を捕食することで両生類の個体数が危機的な状況にまで減少している可能性が指摘されています。天王ダムビオトープでもアライグマ被害に注視しながら、ニホンアカガエルの成長を観察していきます。今のところ、センサーカメラでアライグマは撮影されていません。

次年度の予定

- 活動を継続します。



プールづくり [撮影：2025/2/1]



完成 [撮影：2025/2/1]

一般向けプログラムの実施

ビオトープの利活用促進、自然とのふれあい機会の創出、新規メンバーの獲得等を目的に、一般向けプログラムを開催しました。

昨年度に引き続き「いきものしらべ（生きもの観察会）」と、新規に「水てっぽうあそび」を開催しました。

プログラム名	実施日	参加人数
いきものしらべ	7月27日	大人9人 子供13人
水てっぽうあそび	8月12日	大人9人 子供11人

成果・課題など

- 「近所にこんな楽しい場所があることを今まで知らなかった。知れてよかった。」、「魚がたくさんいたから次は魚とりに来る」、「テニスや野球の関係者以外は、門扉から中へ入ってはいけないと思っていた」、「生きもの観察に毎年参加したい」、「タマムシを捕まえるために子供よりも親が必死になってしまった」、「普段触れることがない投網に挑戦できて貴重な体験になった」などの感想が聞かれました。
- 今回のプログラムは、チラシ配布、イベント終了後の更衣室やシャワールームの使用など、天王ダムスポーツガーデンに協力してもらいました。今後も、連絡を取り合い、協力できるところは協力し合い、天王ダムを盛り上げていきたいと思えます。
- 今回、はじめて神戸電鉄鈴蘭台駅と北鈴蘭台駅の有料のチラシ置き場を利用しました。新規申込者は全員が、駅置きチラシがきっかけとなっていました。
- 生き物や自然を前面に出さないイベントの開催により人を集めることで、天王ダムビオトープの広報活動に一定の効果があることが分かりました。一方で、活動メンバーの新規獲得にはつながりませんでした。子育て世代は活動に参加する時間的余裕がないことが原因と考えられます。

今年度成果の活用

- 生き物や自然を前面に出さないイベントの開催により人を集めることで、天王ダムビオトープの広報活動に一定の効果があることが分かりました。
- 駅置きチラシの集客効果が大きいことが確認できました。

次年度の予定

- 今後も継続します。
- 親子ではなく大人対象のプログラムを企画します。



いきものしらべ [撮影：2024/7/27]



水てっぽうあそび (水風船キャッチボール)
[撮影：2024/8/12]



駅置きチラシ (鈴蘭台駅)
[撮影：2024/7/9]



駅置きチラシ (北鈴蘭台駅)
[撮影：2024/7/9]

てんのう

天王ダムビオトープで 水合戦 ～水てっぼうあそび～



8月5日 (月) 15:00-17:00
悪天候時：8月12日(月・祝)に延期

**先着20組
申込必要**

山間の緑豊かな天王ダムビオトープには、きれいな水が流れる浅い小川があります。そこで、自慢の水てっぼうを持ち寄って、思う存分撃ち合って涼むイベントです。

【持ち物】
水てっぼう、ウォーターシューズまたは濡れてもいいスニーカー、タオル、飲み物、帽子

【注意事項】

- ・中学生未満は必ず保護者同伴でご参加ください。
- ・年齢制限はありません。小さなお子様から大人まで一緒になって楽しみましょう！
- ・現地には水道や更衣室がありません。お手洗いは天王ダムスポーツガーデンにあります。

   **実施：鈴蘭台エコアップ・プロジェクト**
申込先：dam-bio@kobe-shizen.net (担当：日野)

兵庫県の補助を受けて実施します。

天王ダムビオトープ ボランティア募集

自然体験

生物多様性保全

利活用促進



私たちの活動

天王ダムビオトープは、鈴蘭台地区では希少な、小さなお子様でも川で水遊びができる空間です。

また、ゲンジボタル、タマムシ、ケラ、カワセミ、サワガニなど、かつて普通に見られた生きもの達を観察することができます。

当団体は、天王ダムビオトープをみんなが気持ちよく利用できるように、自分達も楽しみながら、月1回程度の活動をしています。

今後は、自然体験学習の拡充や、コベカツクラブ※への登録を模索しており、新たな仲間を必要としています。

※コベカツクラブとは、神戸市の中学生が、放課後・休日に校区の枠を越えて、さまざまなスポーツ・文化芸術活動に参加できる新しい仕組みです。



このチラシは兵庫県補助を受けて作成しています。

※天王ダムビオトープ案内看板、北区中里町、ベルスト鈴蘭台で配布

鈴蘭台エコアップ・プロジェクト

当団体は天王ダムを管理している兵庫県神戸土木事務所と「ひょうごアドプト」の合意を締結しており、兵庫県の支援を受けながら、天王ダムビオトープの環境保全や水質や動植物の調査、利活用プログラムの企画実施、広報活動などの活動を行っています。

活動趣旨に賛同した有志により「無理せず、楽しく」をモットーに活動しています。

公的な助成金等を使用できない、年度当初に予定していなかった活動や、会員の交流を目的とした物品購入に必要な資金を準備するため、会費制を取っています。

【1,000円/年・人(但し、子供・学生は免除)】

- ※体験参加は無料で常時受入中。
- ※賛助会員、団体会員制度が別途あります。
- ※会則、会員規程に抵触する方は参加できません。

私たちのミッション

天王ダムビオトープを環境学習の場として最大限に活用できるようにするため、環境保全、調査、環境学習の実施、市民と自然との触れ合いの場づくり、市民の交流の場づくりを目指しています。

- 「地域の環境を地域が創り守る」
- 「地域の子供を地域で育てる」
- 「地域を元気にする」

この3本柱で活動を展開しています。



2024年活動内容

第1土曜日を基本として毎月活動しています。子供から大人まで誰でも参加できます。

月	日	内容
4	6	草刈り、カエルの産卵場の観察、薪棚づくり、ごみひろい
5	4	草刈り、ごみひろい
6	1	草刈り、水質調査、ごみひろい
7	6	草刈り、ごみひろい
7	27	いきものしらべ（一般募集プログラム）
8	4	草刈り、ごみひろい
8	12	水てっぽうあそび（一般募集プログラム）
9	7	草刈り、ごみひろい
10	5	草刈り、ごみひろい
11	16	草刈り、ごみひろい
12	7	植栽木のモニタリング
1	11	ベンチ周りの土の撤去、草刈り、間伐
2	1	カエルの産卵場づくり
3	1	オギ移植、ごみひろい

※2025年度の予定は公式サイトでお知らせします。

天王ダムビオトープ

天王ダムビオトープは、子供たちが安全に生物観察ができる場所を目指して、兵庫県が神戸市立小部東小学校と連携して、2017年度に整備した施設です。

既設親水エリアを改修した水辺ゾーンと、新たに設置した里山ゾーンからなり、里山ゾーンには、小学生が種を集め、3年間の育苗を経て植樹した16種類の樹木が植栽されています。これらは全て六甲山地で採集した地元の植物です。

水辺ゾーンは、水深10～60cm程度の川で、メダカ、ドジョウ、カワムツ、オイカワ、コオイムシ、トンボ類、サワガニ、モクスガニ、ゲンジボタル、ヒキガエル、ニホンアカガエル、カワセミなどを観察できます。



Facebook



Instagram



公式サイト



メール

鈴蘭台エコアップ・プロジェクト

連絡先：dam-bio@kobe-shizen.net

天王ダムビオトープの草刈り

ひょうごアドプト

里山ゾーン、水辺ゾーン、対岸の広場の草刈りをしました。

実施日	参加人数	実施日	参加人数
4月6日	5人	9月7日	7人
5月4日	5人	10月5日	7人
6月1日	9人	11月16日	6人
7月6日	9人	3月1日	8人
8月4日	7人	延べ9日	延べ63人

成果・課題など

- コロナ禍などに草刈りが疎かになり、キイロスズメバチやアシナガバチが複数の巣を作った年がありましたが、今年度は4～5月にしっかりと草刈りをしたため、ビオトープ内でハチの巣を一つも確認されませんでした。
- 対岸の広場は背の高いススキやセイタカアワダチソウが繁茂し、人が寄り付けなくなってしまう。今年度は草刈りを頻繁に行い、ベンチ等を使用できる状態を維持しました。
- 対岸の山際にツバキが植栽されていますが、竹が追いかぶさるように生えていました。その竹を伐採したことで、12～1月にツバキの花がきれいに咲きました。
- パーゴラの南東側にオギ原があります。今年度はセイタカアワダチソウが目立ったため、3月に全面刈り取りをしました。

今年度成果の活用

- メンバーの刈払機使用スキルが上達してきました。初心を忘れず安全第一で、草刈りをする範囲を徐々に拡大していきたいと思えます。

次年度の予定

- 活動を継続します。



里山ゾーンの草刈り [撮影：2024/6/1]



ダム管理用道路に倒伏した木の伐採
[撮影：2024/6/1]



間伐材をなるべく高い位置へ移動
[撮影：2024/6/1]



倉庫周辺の草刈り [撮影：2024/6/1]



対岸広場の草刈り [撮影：2024/7/6]



オギ原の刈取り [撮影：2025/3/1]



モコモの刈取り [撮影：2025/3/1]



モコモの刈取り後 [撮影：2025/3/1]

美化活動

毎回の活動時にゴミ拾いをしました。しばしば、パソコンのモニターやゴルフバッグなどの粗大ごみの投棄も見受けられました。

また、親水施設のタイル上に泥が堆積し、雑草が繁茂する原因になっていたことから、前年度に引き続き、泥かきを行いました。

実施日	参加人数	実施日	参加人数
4月6日	5人	9月7日	7人
5月4日	5人	10月5日	7人
6月1日	9人	11月16日	6人
7月6日	9人	12月7日	8人
7月27日	22人	1月11日	11人
8月4日	7人	2月1日	5人
8月12日	20人	3月1日	8人
		延べ14日	延べ129人

成果・課題など

- 毎回、45L ビニール袋1～2袋分の可燃ごみを拾いました。
- 親水施設の泥かきを2022年から継続的に行っています。パーゴラ周辺の泥がなくなり、雑草も減ってきました。
- 毎回同じ場所に同じ大きさの犬の糞が落ちています。また、ベンチに大量のごみ、バーベキューをした痕、バケツの中で腐った捕獲したと考えられる魚が置かれていたことがあります。ベンチ周りのタバコの吸い殻も尽きません。利用しやすい場づくりをすると、マナーの悪い人もやって来るのが残念です。

今年度成果の活用

- 少しずつゴミが減ってきています。

次年度の予定

- 活動を継続します。



タバコの吸い殻



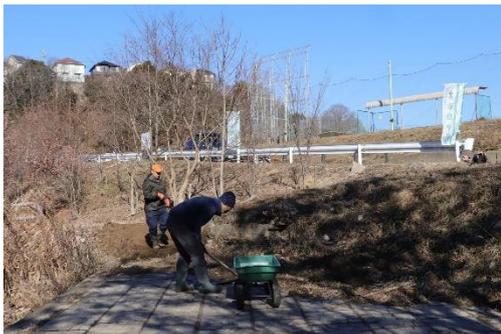
パソコンモニター



ゴミひろい [撮影：2025/1/11]



泥かき [撮影：2025/1/11]



泥かき [撮影：2025/1/11]



泥かき [撮影：2025/1/11]